

テネシー・ウィリアムズの作品における宗教と性

藤 田 秀 樹

Religion and Sex in the Works of Tennessee Williams

Hideki FUJITA

Abstract

Tennessee Williams' works are characterized by a fusion of spirituality and sexuality. Symbols and images which Williams uses to express the fusion are drawn from two sources, mythical and mystical. In ancient myths, man's sexual nature and his religious attitude are inseparable. Williams' saintly figures acting as priests of the pagan ritual of fertility are based on this idea. The sexual experiences of Williams' characters often have close resemblance to mystical experience. They serve as a vehicle to escape from the prison of the self and to attain union with the other. The communion of spirituality and sexuality represents attempts to bring fertilizing and regenerative power to the world and offer solutions for spiritual isolation of modern man.

1

Tennessee Williams は、初めてプロの劇団により上演された彼の作品 *Battle of Angels* を “a play with intense religiosity and hysterical sexuality coexisting in one person”¹⁾ と表現している。このいわば公式のデビュー作とも言える作品をはじめとして、宗教的なものと性的なものは一貫して彼の作品世界における極めて重要な要素となっているように思われる。彼の作品は多様な宗教的イメージ、宗教的モチーフに満ちている。例えば主人公はしばしばキリストに (*Battle of Angels* と *Orpheus Descending* の Val, “One Arm” の Oliver など)、ヒロインは聖母に (“Miss Coynte of Greene” の Miss Coynte, *Portrait of a Madonna* の Miss Collins など) 擬せられる。また何人かの登場人物は神の探求者であり (*Suddenly Last Summer* の Sebastian, *The Night of the Iguana* の Shan-

non など)、いくつかの作品では聖痕や神体示現^{チオファアニー}などの神秘的宗教現象が描かれている (*The Rose Tattoo*, *The Mutilated*, “Completed” など)。性については言うまでもない。異常な性と暴力を好んで題材にする作家というのが Williams の一般的イメージである。

そして宗教と性の問題は、Williams に関する限り別個に論じられるべきものではなく、密接に結びついている。両者の結びつきを示す具体例を二三挙げると、例えば彼の描く Christ figure は極めてエロティックな存在である。また性的乱交にふける女性が聖母のイメージをもって描かれたりする。正統的キリスト教においては、宗教と性は相容れないものと考えられる。先に言及した Williams の作品における宗教的諸表象のほとんどはキリスト教的なものだが、そこに内在する宗教観念は正統的キリスト教のそれとは異なるものと言える。また近代の価値規範においても、精神と肉体ははっきり区別され、前者にのみ人間としての価値性が与えられる。ゆえに宗教と性を融合しようとする試

昭和 63 年 10 月 31 日受理

＊ 一般教育部講師